

クロツラヘラサギのカラーリング観察

—今年の夏、韓国で標識放鳥—

方偉宏・金守一

訳 福井和二

韓国教育大学生物科の金守一教授が6月4日に漢江河口にある二つの小島でクロツラヘラサギの標識放鳥を行ない、8羽のクロツラヘラサギの右上脚に赤いプラスチック環に白字の記号が書かれた標識を装着放鳥した。記号はK31からK38まで、3色組み合わせの色環が上脚に装着されている。金教授は台湾のバードオッチャーにこの色環で標識されたクロツラヘラサギの観察協力を期待している。

先日、台南の野鳥学会会員が曾文溪河口で、K37の脚環がついた1羽のクロツラヘラサギを観察したので、早速、韓国の研究者に報告をしたことから、彼らが今年標識放鳥したものであることがわかった。金教授は台湾の鳥類観察者が標識されたクロツラヘラサギを観察したならば、できれば写真を撮影し、資料を添えて送ることを希望している。現在多くのバードオッチャーが高倍率の写真機で撮影しているので間違いなく写真が得られ、希望どおり金教授に提供することができるであろう。

金教授によるとクロツラヘラサギの研究で、最近積極的、かつ最も成果をあげたのは、去年、曾文溪河口において行われた中華鳥会のクロツラヘラサギ探鳥会における成果であるといわれる。何年か前、バードライフアジア委員会主導で中華鳥会、日本鳥会、香港鳥会の合同作業による衛星追跡において、大部分のクロツラヘラサギが韓国、漢江河口附近の離島で繁殖していることが発見された。当然、その地区は38°線の南北朝鮮停戦ラインの延長線上にあり、警戒の厳重な地域であることからクロツラヘラサギの研究の申請は困難であったが、金教授は万難を排し研究の許可を取り付け、漢江河口の離島におけるクロツラヘラサギの研究を開始した。金教授によると、この島嶼上の研究には軍事境界線近くにあることから、政府の多くの機関へ申請を出す必要があった。例えば、国防部の許可、当該海域の警戒にあたっている海軍の許可、島に上陸するため陸戦隊の許可、クロツラヘラサギは韓国の保護鳥であるため、環境部の捕獲許可、また天然記念物であるため文化部の捕獲許可、小島を管轄する仁川特別市の海上警察との連携、渡船契約の申請、等々申請、許可の手続きのため1年ほどを費やし、今年やっと標識調査作業に着手することができた。幸運にもその内の1羽のクロツラヘラサギが台湾で確認された。

もし、あなたが標識されたクロツラヘラサギを観察したならば、標識されている脚環の色と左右の脚の位置、脚環の色の組み合わせ、記号(例えばK37などと記されている)等を確認し、観察日時、観察者英文記名、観察地点(できれば緯度、経度)、確認された脚環の状況、同時に観察された群れの状況(幼、成鳥の数等)を中華鳥会へ連絡して戴きたい。

もし直接金守一教授に連絡を希望される方はsooil@cc.knuc.ac.krへ。

訳注

- * 原文では日本鳥会となっているが、山階鳥類研究所と日本野鳥の会が発信機の装着を行った。